

中学校数学科における主体的に 数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ生徒の育成

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系(数学)

佐藤 誓成

私のM1実習での授業実践では、生徒主体の授業を目指していたが、教師の指示中心の授業となってしまった。生徒が積極的に考えを働かせて学習に取り組んでいたとは言い難かった。そこで、生徒が主体的に数学的な見方・考え方を働かせるような授業をすることを考えた。まず数学的な見方・考え方を働かせるためには、数学的な見方・考え方とはどういうもの何かを明らかにし、それを働かせるためにはどのような支援が有効であるか考えた。具体的な支援としては、数学的な見方・考え方を働かせる発問や生徒が主体的に活動するためのものが必要ではないか考えた。そのために、中島健三、片桐重男、G.ポリアの文献を参考にした。

授業実践では、授業前に発問を構想することや生徒からのアンケートをもとに主体的に活動するためのものとして「わかるよ!できるよ!カード」を作成した。その結果として、生徒は問題を論理的、統合的・発展的に考えて主体的に問題解決をすることができた。